

7月7-11日週の豪ドル円レビュー

July 14, 2008

■雇用統計で下げ幅を取り戻す

High : 103.15 円 Low : 101.40 円
 Close : 102.69 円 (前週比▲0.20 円)

今週の豪ドルも高値圏でのみ合いを継続。今週は10日の雇用統計を除くと総じて景気減速を示す指標が相次いだため、週前半は軟調な展開に。しかし、雇用統計が事前予想を上回ると、これまでの下落分をほぼ取り戻す動きとなった。

■7/7 (月) 102.53 円 (前日比▲0.36 円)

軟調。NY 時間にダウ平均が急反落したことから、ドル円が大幅に下落。クロス円も連れ安となり、一時102.00 円まで下押しして、同水準に位置する転換線を窺う動きとなった。

■7/8 (火) 102.51 円 (前日比▲0.02 円)

上下に振れる動き。イラン絡みの報道を受けた地政学リスクの高まりから、一時101.40 円まで下落。しかしバーナンキ FRB 議長発言を受けてドルが買い戻されると、クロス円も連れ高に。結局、東京時間の下げ幅を相殺して引けた。

■7/9 (水) 102.17 円 (前日比▲0.34 円)

続落。東京時間は相次いで弱い指標結果が続いたことから下落。対ドルで0.95ドルのダブルノータッチOPを突破したことも豪ドルの下落を誘い、一時101.81 円まで安値を拡大した。その後はNY時間にかけて上昇するも、ダウ平均の下落に反応してドルが全面安となると、豪ドル円も再び102.00 円付近まで下振れた。

■7/10 (木) 103.00 円 (前日比+0.83 円)

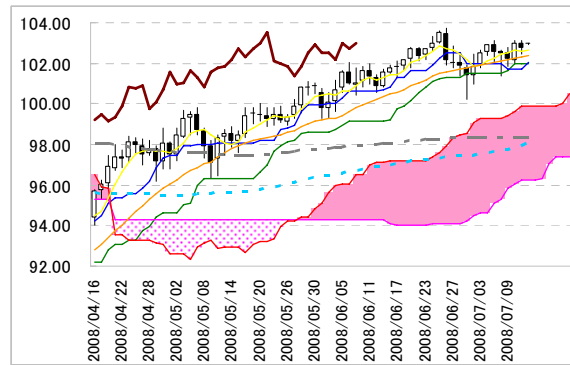
反発。市場予想を大幅に上回った雇用統計を受けて102 円台後半まで上昇。その後も堅調な動きを続け、一時103.14 円まで上値を伸ばした。

■7/11 (金) 102.69 円 (前日比▲0.31 円)

小幅に反落。東京時間は前日からの底堅い動きを継続したが、米政府系住宅金融機関絡みの懸念を背景にドル売りが進むと、ドル円の下落到連れ安となった。

月日	High	Low
7/7 (月)	103.15 円	102.00 円
7/8 (火)	102.64 円	101.40 円
7/9 (水)	102.76 円	101.81 円
7/10 (木)	103.14 円	101.96 円
7/11 (金)	103.15 円	102.43 円

■豪ドル円の推移



■テクニカル短期・中期ポイント

- 107.85 (07年10月31日高値)
- 103.71 (6月26日高値)
- ==先週末のNYクローズ 102.69 円==
- 102.40 (21日移動平均線)
- 102.06 (日足一目均衡表・転換線)
- 101.98 (日足一目均衡表・基準線)
- 100.25 (7月1日安値)
- 98.31 (200日移動平均線)
- 98.04 (90日移動平均線)

■豪州の重要指標結果

- 7/8 (火) [結果] (前回)
- 6月 NAB 企業信頼感指数 [▲9] (▲4)
- 6月 NAB 企業景況感指数 [0] (+7)
- 7/9 (水) [結果] (前回)
- 5月住宅ローン貸出 [▲7.9%] (▲4.2%)
- 7/10 (木) [結果] (前回)
- 6月就業者数 [+2万9800人] (▲2万5600人)
- 6月失業率 [4.2%] (4.3%)

■アウトルック ダイジェスト版

■レンジ : 100.50 - 104.00 円

15日の金融政策決定理事会議事録、16日のステイブンス RBA 総裁の講演に注目。議事録はやや利上げ観測が後退したことを匂わせた内容となる可能性が高いが、市場の追加利上げ観測は大幅に後退しており、ハト派な内容に対する反応は限定的か。一方、豪ドル円には別の下押しリスクがあることに注意。今週は週末にかけて米金融機関の決算が集中。リスク回避の動きが高まりやすい環境へと向かう可能性が高いため、クロス円全体で下落圧力がかかることも考えられよう。